CLIENT TODAY　デジタル変革をともに進める

実証実験でブロックチェーン技術を応用したデジタル通貨の有用性を確認

株式会社 富山第一銀行

富山県を中心に企業・個人向けの金融サービスを提供する富山第一銀行では、インテックと共同でブロックチェーン技術を活用したデジタル通貨（FBC:First Bank Coin）の実証実験を2018年11月28日～2019年4月23日の期間で実施し、デジタル通貨の有用性を検証しました。

文・上田純美礼　撮影・川北武志

生活スタイルの変化に対応し地域経済の発展に寄与する

富山第一銀行は、富山県を中心とする地域銀行として、地域の方々からお預かりした預金を地元の企業や資金を必要としている方々に貸し出し、地域に還元・還流する役割を担っています。

現在、富山第一銀行が注力しているのが、金融取引を時間や場所を気にせず「楽しい体験」とするための取り組みです。

2019年2月にはスマホアプリをアップデートして、預金口座とクレジットカードの一括管理を可能にしたほか、お店情報やお得なクーポンの受け取り機能を追加し、4月には全国の金融機関が参加するスマホ決済サービス「J-Coin Pay」との口座連携サービスを開始するなど、顧客のライフスタイルの変化に応じたサービスの開発・提供を次々と進めています。

キャッシュレス社会を見据え行内専用のデジタル通貨を発行

昨今、現金を使用せずに支払い・受け取りを行うキャッシュレス取引の仕組みが広がっています。中でもその手軽さで注目を集めているのがスマホによるコード読み取り型決済方式です。しかし、実際の利用経験者はまだ少なく、小売業者も導入には消極的なのが現状です。

こうした状況の下、富山第一銀行では、スマホを使用したキャッシュレス決済の利便性を検証したいと考えていました。そこで従来からブロックチェーン技術の研究を進めていたインテックの協力を得て、行内専用のデジタル通貨「First Bank Coin（FBC）」の実証実験を開始する運びとなったのです。

実験は富山第一銀行本店にFBC専用の口座を設け、行員が現金を振り込むと同額の行内コイン（1円＝1FBC）を発行する形で行われました。

行員はスマホアプリ「First-B Pay」を使用して本店食堂内の販売ブースでQRコードを読み取り、チャージしたコインを用いて商品を購入できます。また、行員同士でコインの送受信ができる機能も設けました。

売店の売上は11倍に手軽さが購入を促進する結果に

実験を推進したのは、同行のフィンテック*1対応の専任部署であるデジタルイノベーション室でした。実験の責任者となったデジタルイノベーション室の長谷聡室長はこう語ります。

「最初にインテックと共同で実証実験を行ったのは、2017年10月に開かれた『富山県ものづくり総合見本市』でした。銀行が変わっていく兆しが見えていたため、インテックに相談したところ、ブロックチェーンについて大変わかりやすく説明していただき、その後も継続

Process

課題
キャッシュレス社会への対応

→

解決策
ブロックチェーン技術を応用したデジタル通貨の実証実験を実施

→

成果
スマホを使用したキャッシュレス決済の利便性と有用性を行員自ら確認

的にお話をしていくなかで実施を決めました。来場者がスマホアプリをインストールし、出展者のブースを回ってQRコードを読み取り、ポイントを集めるとドリンクなどに交換できる仕組みでした。今回はさらに一歩進めて現金と行内コインを交換し、実際に商品購入ができるようにしたわけです」

今回は富山第一銀行がコインを発行する「運営者」、コインを用いて物品を販売する「加盟店」両方の立場でコインの流通量や物品の販売管理ができることを検証すること、行員自身がユーザーとなって、その利便性を検証することを第一の目的としました。

約5カ月の実験期間内に、425名の行員が行内コインを利用しました。「売店の売上は11倍に伸び、一時は商品の補充が間に合わないほどでした。本店という場所柄もあり40代、50代の行員の利用が多く、行員間の送金も、缶コーヒー代など小銭を貸し借りする感覚で利用されました。また、行内コインの流通量、商品の売上、送金の利用状況が素早く可視化できるという利点も実感できました」(長谷室長)。

ブロックチェーンで安全性を確保 さらなる応用を目指して

実験の第二の目的はブロックチェーンを利用したシステムが安全に運用できるか、負荷に耐えうるかを検証することでした。ブロックチェーンは分散型台帳とも呼ばれ、データが離れた場所にあるサーバーに分散して保持され、記録されたデータが改ざんされない、一部に故障したコンピューターが存在しても正しく動き続けるという特徴を持つ新しいデータベースです。

今回のシステムは全銀協のブロックチェーン連携プラットフォーム*2を使用し、1秒あたり100回の処理を想定して開発しました。仕様の検討は富山第一銀行が、開発はインテックが中心となり、システム開発は両者の共同作業で進められました。運用期間中、大きなトラブルは発生しませんでした。

「インテックだからお願いできた実証実験だと思います。長年にわたるパートナーであり、何でも相談できるという安心感がありました」(長谷室長)。

富山第一銀行ではこの実験に大きな手応えを感じています。「先進的な銀行というアピールができましたし、行員自身がキャッシュレス決済の利便性を体験し、顧客にも自信を持って説明できるようになりました。今後は地域通貨への応用も考えています」と長谷室長は言います。富山第一銀行は新たな金融サービス開発のパートナーとして、インテックに大きな信頼と期待を寄せています。

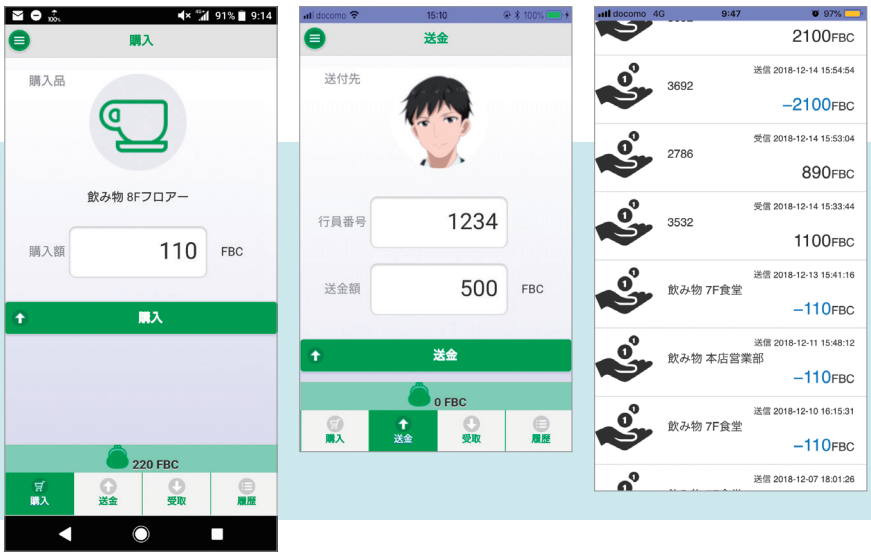
＊1　フィンテック(FinTech)：ITを活用したこれまでにない新しい金融サービス。
＊2　ブロックチェーン連携プラットフォーム：金融機関やIT企業などがブロックチェーンを利用した新たな金融サービスを開発していくため、全国銀行協会が整備した実証実験の環境。

CLIENT PROFILE

社名：株式会社 富山第一銀行
創業：1944年10月1日
本社：富山市西町5番1号
店舗数：66店(インターネット支店を含む)
従業員数：720名(単体、2019年3月末現在)

富山第一銀行 取締役 総合企画部 デジタルイノベーション室長 兼
ダイレクトバンキング部長 長谷聡氏

本店食堂に設けられた販売ブース。QRコードを読み取って代金を決済する



スマホで代金決済、送金が行え、履歴も確認できる